

J A須高りんご部会高山支部での 「信州高山さわやかりんご」のブランド化

2009 日本農業賞より

1. J A須高りんご部会高山支部概要

(1) 農業産出額の推移：農業産出額の第1位は常にりんごが占めているが、昭和60年以降減少傾向にある。



(2) J A須高りんご部会高山支部会員数及び平均年齢

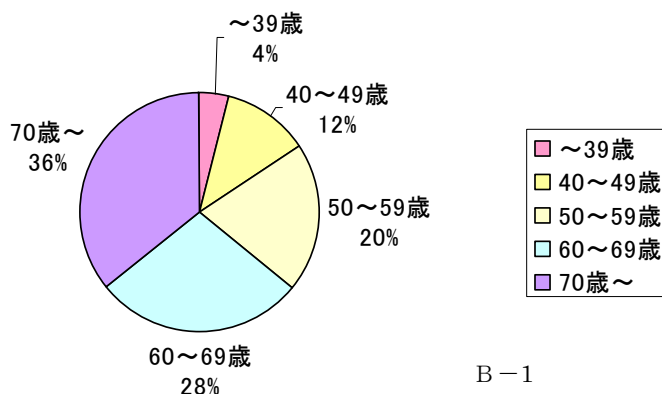
部会員数	240名
平均年齢	64歳 (2008年12月31日現在)

(3) 会員の主要栽培作物

品目	1戸当たり平均面積 a
果樹	58
内 りんご	40
水稲	20
その他	17
経営面積合計	95

(4) 年齢別構成人数・割合

年齢	人数 (人)	割合 (%)
～39歳	10	4
40～49歳	28	12
50～59歳	48	20
60～69歳	68	28
70～	86	36
合計	240	100



2. 小さな村の大きな挑戦

J A須高高山共撰所での「信州高山さわやかりんご」のブランド化

(1) ブランドの要素：部会員の努力・信用の積み重ね・イメージの向上

- ①一本一本の樹に十分な手間をかけて栽培。
- ②品質での圧倒的な信頼感（味・大きさ・着色の向上）。

「信州高山さわやかりんご」の生産・出荷方針

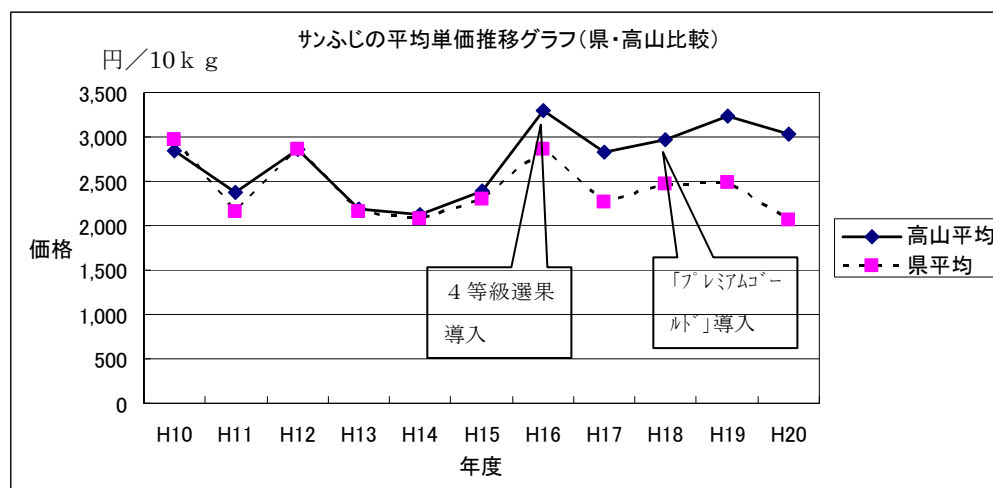
味	平成16年からはりんご栽培の原点に立ち返り早出しはしない方針とした。一定以上の熟度になるまで収穫しない。出荷開始日の設定と選果選別の徹底。特に味の悪い「サふじ」の青み果は規格外として選果で除外。
着色	りんごの全体に色がつくまで収穫しない。特に葉陰や枝あとがないよう徹底管理。逆さ実は荷受けしない。
大きさ	36玉以上の果実生産を目指す。特に小玉（46玉・50玉）は精算金額を低く設定するなど、部会の方針により努力した部会員へより多く精算金額を還元するようなシステムをとっている。

- ③平成16年に出荷箱を茶箱から白箱に変更しブランドイメージの向上を図るとともに、選果基準を3等級から4等級に変更し、規格の厳格化を図った。
- ④平成17年・18年と徐々に選果レベルを向上させ、現在の選果基準に至っている。
- ⑤平成3年から減農薬栽培による環境保全型農業に取り組んでいたこともあり、平成17年に全部会員でエコファーマーを取得。現在はエコファーマーを取得することが前提でないと部会への組織加入を認めていない。
- ⑥日本農業賞へのエントリー。長野県表彰。

(2) 全国ブランドを目指して限りなき挑戦

- ①平成18年に全国ブランド確立に向けて「プレミアムゴールド」規格を新設。フルカラー一段ボールを合わせて製作。完熟、色・形と最高級品で10kg箱が13,000円（従来の約倍価格で設定）の高価格ながら、今では贈答用の人気商品となった。
- ②平成19年に女子美術大学と提携して2個入り的高级箱を製作。
- ③平成21年に3ヶ用（8個入り）の桐箱を製作。1箱10,000円で販売している。

市場における生産物の価格水準



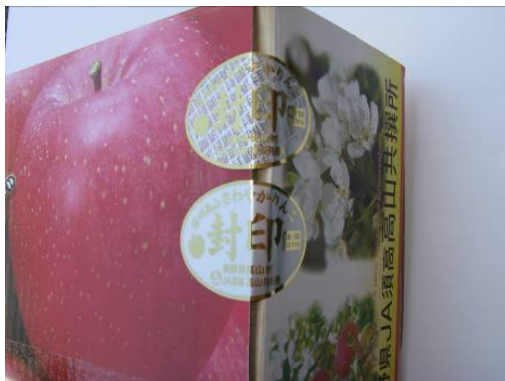
(3) 本物の証明へ

- ①平成18年に「信州高山さわやかりんご」と産地偽造したりんごが流通する事案が発生。
- ②平成19年からは上位等級のりんご箱には、箱を開けると「開封済」の文字が浮き出る金色、銀色の封印シールで封をして出荷。産地偽造の抑止力として使用。



←サンふじ・プレミアムゴールド
1箱13,000円

開封・偽造防止シール



3. 直売での地域産業の活性化と部会員の手取り向上

(1) 地域の活性化

- ①観光資源を生かした直売所の開設。来客者の拡大による地域産業の活性化。
- ②消費者とのふれあい、直接販売、地産地消。
- ③りんごの消費拡大と信州高山産りんごの知名度向上に向け無料試食会を毎日実施。

(2) 部会員の手取り価格向上

- ①部会員の手取り向上と経営の支えとなるよう下級品の直売を進め、ここ数年で来客数、販売金額は拡大の一途をたどっている。
- ②マルチク品（キズ果等のわけあり商品）の全量販売（袋売り、箱売り、詰め放題など）を目指している。

(3) 各種宣伝用資材の製作

- ①「信州高山さわやかりんご」のPRソングの製作。
消費地での宣伝用にPRソングの製作。シーズン中は高山共撰所の直売コーナーでも毎日「信州高山さわやかりんごの歌」を流している。
- ②産地紹介DVDの製作と消費地での販売店向け消費宣伝用DVDの制作。
- ③ポスター、ポップ、のぼり旗、宣伝用チラシ、エコファーマーシールなどの製作。
- ④平成20年に高山共撰所宣伝用ホームページを立ち上げる。部会員個々のエコファーマー認定番号やプロフィール、個々の栽培のこだわりなども掲載している。

(4) 共撰所内の視察・見学を毎日実施

- ①共撰所内に産地紹介DVDの上映コーナーを設け、シーズン中は毎日上映している。
- ②当番の部会役員により共撰所の見学案内、産地PR等を行っている。

4. 加工品での手取り向上

加工向けとなるりんごの手取り価格向上は、将来的にも部会員の経営安定に欠かせない取り組みと位置づけ、PB商品による販売を開始した。

- ①平成17年にりんごジャム（紅玉）の委託製造と販売を始める。
- ②平成19年にりんごワインの委託製造と販売を開始。
- ③平成21年にはシードル、りんごジュースの委託製造と販売を開始した。
- ④現在りんご加工品の商品拡大を進めている。
 カンふじりんごワイン500ml、王林+カンふじりんごワイン720ml、紅玉ワイン720ml（醸造中）、
 カンふじシードル360ml（甘口・辛口）、カンふじりんごシードル750ml（甘口・辛口）。
 りんごジュース1ℓ（秋映・シナスイート・シナゴールド・王林・カンふじ）、りんごジュース250ml。
 りんごジャム（紅玉・シナゴールド・王林・カンふじ・シナゴールドプレミアムジャム）。

5. 山村の未来を描く夢の予想図

(1) りんご部会の今後の方向性

- ①ブランド化により市場出荷の高価格維持。
- ②マルトク（規格外りんご）以下は直売所で販売。
- ③果汁は加工品での委託製造及び販売。
- ④栽培面積の維持、品質・収量の拡大。

(2) 新しい化栽培による産地の活性化とブランド化

- ①「新しい化栽培」により品質・収量の拡大を目指す
平成21年9月25日に「高山村新しい化推進協議会」を設立。
長野農業改良普及センター、高山村農業委員会、JA須高りんご部会高山支部、JA須高高山支所の4組織により構成。
M9台木の取り木繁殖での育成を組織で開始。
規模（平成22年4月末現在）、取り木用母樹：700本、実生苗：600本。
- ②「新しい化栽培担い手グループ」の立ち上げ
新しい化栽培モデル園の設置に向け1,250本の2年生フェーザー苗を育成中。

(3) りんご部会の未来予想図

省力で生産性が高く、高品質なりんご生産が可能となる「新しい化栽培」の産地化に向けて取り組みを始めている。高齢者でも栽培しやすく、早期多収と作業の簡略化、より一層の高品質化が可能となる「新しい化栽培園」が高山村に広がり、多くの後継者が高品質なりんご栽培に意欲を持って挑戦できる基盤ができあがることを部会員共有の夢として叶えるため、昨年第一歩を踏み出した。



(参考) りんご部会高山支部の主な動き (平成16年～)

年 度	内 容
平成16年度	第10回全国環境保全型農業推進コンクール農林水産大臣賞 (高山村)
平成17年度	全部会員でのエコファーマーの取得
平成19年度	長野県園芸特産業関係功労者県知事表彰
平成21年度	高山村産業開発振興功労者表彰：高山村長表彰
平成21年度	日本農業賞長野県表彰：長野県知事賞
〃	日本農業賞長野県表彰：NHK長野放送局長賞
〃	日本農業賞長野県表彰：長野県農業協同組合中央会長賞

(年間の栽培指導スケジュール)

5月	農薬適正使用講習会
5月	摘果剤講習会
6月	仕上げ摘果講習会
7月	園地点検(各支会毎・全部会員)
10月	最終管理講習会
1月	剪定講習会
2月～3月	年間反省会(各支会毎・全部会員)

